

単元名 (選択単元) I ジャズとクラシックの出会い

配当時間 2時間

- 単元の目標 (1) 曲想と、旋律やリズムなど音楽の構造との関わりについて理解することができる。
 (2) 旋律やリズム、特徴的な楽器の奏法や、ピアノとオーケストラの掛け合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさや楽しさを見いだして聴くことができる。
 (3) ジャズとクラシックが融合した音楽に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組もうとする。

標準的な展開例

06070304_001

【教材名】ラプソディー イン ブルー (鑑賞) (P. 48～P. 49)

【準備等】鑑賞CD (あればDVDやBD), ワークシート

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1～2 ジャズとクラシック音楽が融合した音楽の面白さを感じ取って聴く。</p> <p>○「ラプソディー イン ブルー」を聴き、印象に残った部分やそれを特徴付けている要素、感想などを発表し合う</p> <p>○学習課題をつかむ。 ★ジャズとクラシック音楽が出合って生まれた音楽を楽しもう ・ジャズについて知る。</p> <p>○作曲家や「ラプソディー イン ブルー」について知り曲想を感じ取る。 ・ガーシュインや楽曲について知る。 ・ジャズとクラシック音楽が融合した音楽が醸し出す雰囲気を感じ取って聴く。</p> <p>○ジャズ独特のリズムや楽器の奏法の面白さ、ピアノとオーケストラの掛け合いの音楽の面白さを味わいながら、曲全体を聴く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器やその奏法の特徴をつかませるために、DVDやBDなどの視覚資料を使ってもよい ・教科書を見せないで聴かせるとよい。 ・大まかに分けて三つの部分からなることに気付かせる。 ・冒頭のクラリネットのソロやピアノの独奏、耳になじんだ旋律などを取り上げるとよい。 <p>【評】ジャズとクラシックが融合した音楽について話し合う活動を通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャズについて簡単に説明をする。ジャズとはアフリカ系アメリカ人の音楽形式と西洋音楽が融合してできた音楽。リズムや音階などに特徴がある。音源が手に入れば、少し聴かせて特徴をつかませるとよい。 ・ガーシュインについて教科書P 49を参考に説明する。 <p>【資料】ジョージ・ガーシュイン(1898～1937) 20世紀前半のアメリカを代表する作曲家。ポピュラー音楽・クラシック音楽の両面で活躍した。貧しいロシア移民として生まれる。兄は後に作詞家として彼のパートナーとなったアイラ。二人で「アイ ガット リズム」などのミュージカルの音楽を多く手掛けた。また本楽曲作曲後に、独学でオーケストレーションを学び「パリのアメリカ人」などの管弦楽作品も残した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本楽曲はジャズの第一人者であったホワイマンの提案を受け、ジャズとクラシック音楽の融合という「シンフォニックジャズ」として作曲された。約2週間で一気に書き上げたとされる。タイトルには「憂鬱な気分のラプソディー」といった意味がある。ラプソディーとは「民族音楽風で特に形式がなく、自由奔放なファンタジー風の楽曲」という意味があるので、このタイトルから、ガーシュインはジャズをアメリカにおけるある種の「民族音楽」と捉えていたことが伺える。 <p>【評】曲想と、旋律やリズムなど音楽の構造とを関わらせながら聴く活動を通して「知識」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揺らぐリズムや自由気ままに転がるような旋律・叩き付けられるような旋律、クラリネットやピアノのグリッサンドや金管楽器のミュートといった楽器の奏法や音色、ピアノの旋律をオーケストラが受け継いだり、掛け合ったりする部分に着目させる。 ・次々に出てくる新しい旋律がどのように変化するか着目させてもよい。 <p>【共通事項】リズム 音色</p> <p>【評】旋律やリズム、特徴的な楽器の奏法やピアノとオーケストラの掛け合いを聴き取り、曲や演奏のよさや楽しさを見出して聴く活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。</p>

【 備 考 】